アブ・シール南丘陵遺跡
第 21 次・22 次調査概報

地中海
N
アレクサンドリア
ブト
サイス
タニス
テル・イブラヒーム・アワド
テル・アル＝ダバア
ブバスティス
ヘリオポリス
ギザ
ゲベル・アル＝アハマル
ザウィヤト・アル＝アルヤーン
トゥラ
アブ・シール
メンフィス
サッカラ
ヘルワン
ダハシュール
マズグーナ
アル＝リシェト
ファイユーム
マイドゥーム
サイラ
シナイ半島
アコリス
ザウィヤト・アル＝マイティーン
ベニ・ハサン
テル・アル＝アマルナ
紅海
スハーグ
アビドス
シンキ
ナカダ
テーベ
リビア砂漠
エスナ
アル＝クラ
アル＝カーブ
ヒエラコンポリス
エドフ
エレファンティネ
アスワン
0
200km
アブ・シンベル

Fig.1　エジプト地図

I. はじめに

早稲田大学エジプト学研究所は、1991 年 12 月より、文部省（現：文部科学省）科学研究費補助金の助成を受けてエジプト・アラブ共和国、アブ・シール南丘陵遺跡における発掘調査を継続してきた（Figs.1, 2）[1)]。これまでの調査からアブ・シール南丘陵遺跡が王朝時代を通じて極めて重要な場所であったことが明らかとなっており、当該遺跡の性格を解明する事が大きな課題となっている。また発掘調査に並行して、遺跡の保存修復および整備の策定を目的とする学際的な調査研究を実施してきた [2)]。

これまでの調査でアブ・シール南丘陵では、主に初期王朝時代からプトレマイオス朝時代にかけての様々な人間活動の痕跡が明らかとなっている（Fig.3）。丘陵南側斜面においては、初期王朝時代末から古王国時代頃に年代づけられるエジプト最古級の大型石造建造物である石積み遺構、そして石積み遺構に付属し同時期に造営され、中王国時代に再利用されたとみられる東西に部屋を持つ岩窟遺構（AKT02）を発見した。また、東側斜面で岩窟遺構（AKT02）の再利用時の中王国時代とほぼ同時期に年代づけられる岩窟遺構（AKT01）を発見した。石積み遺構の南側では、広範囲に中王国時代に年代づけられる大量の土器の廃棄遺構が発見され、同時代における祭祀活動の痕跡を示す資料が得られた。また、石積み遺構の背後の斜面からは第 2 中間期末から新王国時代初期に年代づけられる集団埋葬を発見し、丘陵で始めて埋葬以降を確認した。このように丘陵の南東斜面では初期王朝時代から新王国時代初期までの活動が考古学的に確認されている [3)]。

丘陵の頂部では、新王国時代第 19 王朝のラメセス 2 世の第 4 王子でメンフィスのプタハ大司祭の職にあったカエムワセトの石造建造物と新王国時代第 18 王朝のアメンヘテプ 2 世およびトトメス 4 世に関連する日乾煉瓦建造物を発見した [4)]。さらに、2008 年度の第 17 次調査において、カエムワセトの石造建造物から北北東へ約 40m の場所から、新王国時代第 19 王朝のイシスネフェルトのトゥーム・チャペルを発見した。そして、2009 年の第 18 次および第 19 次調査においてトゥーム・チャペルの埋葬室と葬送儀礼に使用した土器を埋納したピットを発見した [5)]。

2011 年 1 月末から第 20 次調査を開始したが、エジプト革命によって調査の中止、延期を余儀なくされた。同年 9 月は発掘調査の許可が下りず、第 21 次調査として遺物の調査研究およびイシスネフェルトの石棺の記録と修復作業を行った。その後、2012 年の 8 月から 9 月にかけて第 22 次調査を実施し、丘陵頂部の他に丘陵の南東斜面、そして丘陵から南東に約 450m に位置する南東地区で発掘調査を行い、南東地区で新しい遺構を発見した。2009 年の第 19 次調査からようやく 2 年後に発掘調査を再開することができたのである。

本書は、2011 年の第 21 次調査と 2012 年の第 22 次調査において実施された発掘調査、出土遺物の保存修復作業、出土人骨の人類学的研究、出土遺物の化学分析の概報である。なお、これらの調査は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究（S）「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から観た遺跡整備計画の学際的研究」の一環として実施された。

アブ・グラーブ
ニウセルラー王の
太陽神殿
ウセルカフ王の
太陽神殿
サフラー王の
ピラミッド
ニウセルラー王の
ピラミッド
ネフェルイルカーラー王の
ピラミッド
アブ・シール
アブ・シール南
丘陵遺跡
サッカラ
初期王朝時代の
マスタバ墓群
テティ王の
ピラミッド
セラペウム
アヌビエイオン
ウセルカフ王のピラミッド
ジェセル王の
階段ピラミッド
セケムケト王の
階段ピラミッド
ウナス王の
ピラミッド
ホルエムヘブの
トゥーム・チャペル
エレミア修道院
ウナス王の
河岸神殿
大周壁
N
0
500m

Fig.2 サッカラ地図

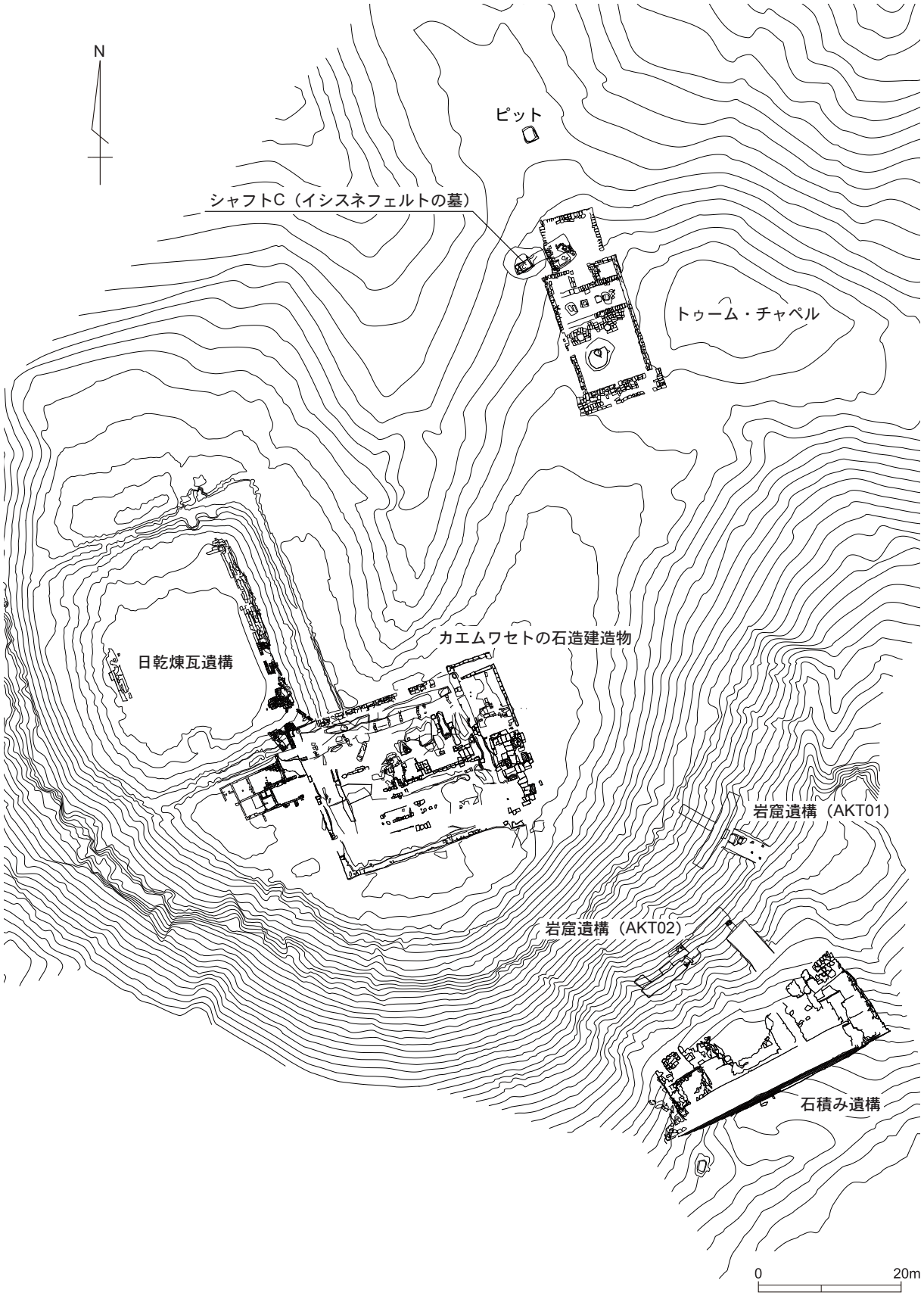

Fig.3　アブ・シール南丘陵遺跡地図（第 19 次調査終了時）

第 21 次調査、第 22 次調査の参加者は以下の通りである（肩書は調査時のもの）。

第 21 次調査隊員

隊長：	吉村作治	早稲田大学名誉教授（エジプト美術考古学）
現場主任：	河合　望	早稲田大学理工学術院総合研究所客員准教授（エジプト学）
隊員：	西坂朗子	早稲田大学エジプト学研究所客員研究員（エジプト考古学・保存修復）
	高橋寿光	早稲田大学エジプト学研究所客員次席研究員（エジプト考古学・保存修復）
	熊崎真司	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース修士課程（エジプト考古学）
	山田綾乃	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース修士課程（エジプト考古学）
	苅谷浩子	シカゴ大学オリエント研究所修復師（保存修復）
準隊員：	後藤里英	早稲田大学文学部考古学コース 3 年
	伊東真佑子	早稲田大学文学部考古学コース 2 年
	福田莉紗	早稲田大学文化構想学部社会構築論系 2 年
広報部：	岩出まゆみ	早稲田大学エジプト学研究所客員研究員
	藤田礼子	サイバー大学世界遺産学部助教・早稲田大学エジプト学研究所客員講師
渉外：	吉村龍人	早稲田大学エジプト学研究所・カイロオフィス・マネージャー
	ムハンマド・アシュリー	早稲田大学エジプト学研究所・カイロオフィス現地コーディネータ

第 22 次調査隊員

隊長：	吉村作治	早稲田大学名誉教授（エジプト美術考古学）
現場主任：	河合 望	早稲田大学文学学術院非常勤講師（エジプト学）
隊員：	近藤二郎	早稲田大学文学学術院教授（エジプト学）
	中川　武	早稲田大学理工学術院教授（建築史）
	高宮いづみ	近畿大学文芸学部教授（エジプト考古学）
	柏木裕之	サイバー大学世界遺産学部教授（エジプト建築史）
	高橋寿光	早稲田大学エジプト学研究所客員次席研究員（エジプト考古学・保存修復）
	矢澤　健	早稲田大学エジプト学研究所招聘研究員（エジプト考古学）
	山田綾乃	早稲田大学大学院文学研究科考古学コース修士課程（エジプト考古学）
	苅谷浩子	シカゴ大学オリエント研究所修復師（保存修復）
	馬場悠男	国立科学博物館名誉研究員（形質人類学）
	坂上和弘	国立科学博物館主任研究員（形質人類学）
	阿部善也	東京理科大学理学部助教（分析化学）
	遠山佳苗	東京理科大学大学院理学研究科修士課程（分析化学）
	中村彩奈	東京理科大学大学院理学研究科修士課程（分析化学）
	大越あや	東京理科大学理学部 4 年
	サリーマ・イクラム	カイロ・アメリカン大学教授（動物考古学）
	リチャード・ジャスキ	保存修復師（保存修復）
準隊員：	福田莉紗	早稲田大学文化構想学部社会構築論系 3 年
	大里和也	早稲田大学文学部考古学コース 3 年

広報部：　岩出まゆみ　早稲田大学エジプト学研究所客員研究員
藤田礼子　サイバー大学世界遺産学部助教・早稲田大学エジプト学研究所客員講師
渉外：　吉村龍人　早稲田大学エジプト学研究所・カイロオフィス・マネージャー
ムハンマド・アシュリー
早稲田大学エジプト学研究所・カイロオフィス現地コーディネータ

（吉村作治）

註

1) 本研究に関わる科学研究費補助金の採択種目および研究期間は以下のとおりである。
1．平成 3 〜 5 年度、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）、課題番号：03041079、研究代表者：吉村作治、研究課題：エジプト・アラブ共和国アブ・シール地区におけるピラミッドおよび周辺遺跡の調査
2．平成 6 年度、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）、課題番号 : 06044138、研究代表者 : 吉村作治、研究課題 : エジプト・アラブ共和国アブ・シール南丘陵遺跡の緊急保全と出土遺物の整理
3．平成 7 〜 9 年度、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）、課題番号 : 0704125、研究代表者 : 吉村作治、研究課題 : エジプト・アラブ共和国アブ・シール南地区における丘陵頂部および周辺の遺跡の調査
4．平成 10 〜 11 年度、文部省科学研究費補助金（国際学術研究）、課題番号：10041036、研究代表者：吉村作治、研究課題：エジプト・アラブ共和国アブ・シール南地区における丘陵頂部および周辺遺跡の調査
5．平成 12 〜 14 年度、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（A）（2）海外学術調査）、課題番号 : 12371011、研究代表者：吉村作治、研究課題：古代エジプト、アブ・シール南丘陵頂部遺跡の保存計画に関する基礎的研究
6．平成 15 〜 18 年度、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（A）（2）海外学術調査）、課題番号 : 15251001、研究代表者：吉村作治、研究課題：エジプト・アラブ共和国アブ・シール南丘陵遺跡の保存整備計画立案のための研究
7．平成 19 〜 23 年度、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（S））、課題番号 : 19100010、研究代表者 : 吉村作治、研究課題：エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から観た遺跡整備計画の学際的研究
2) 第 9 次調査から第 11 次調査で行われた保存修復に関する研究は以下を参照（西浦 2002, 2003a, 2003b, 内田、曽我 2002; 内田、須田 2003; 内田、伊藤 2003; 長谷川 2002; 長谷川、新井 2003; 菊池、西坂 2003）。また、第 12 次調査から第 15 次調査の保存修復作業に関しては、以下を参照。（吉村他 2004; 柏木 2005a, 2005b, 2006, 2007; ジャスキ 2007; 西坂、高橋 2005, 2007）。2007 年度の第 16 次調査から第 19 次調査の保存修復作業に関しては、以下を参照（青木、高宮 2008; 苅谷 2008, 2009, 2010; 西坂 2008, 2010）。
3) 丘陵斜面の調査を実施した第 10 次調査から第 16 次調査の概要については、以下を参照（吉村他 2003a, 2003b, 2003c, 2004a, 2005, 2006, 2007, 2008: Yoshimura and Kawai 2002, 2003, 2007; Yoshimura et al. 2005）。
4) 丘陵頂部のカエムワセトの石造建造物と第 18 王朝の日乾煉瓦建造物の発掘調査を実施した第 1 次〜第 9 次調査の概要は以下を参照（吉村他 1994, 1995, 1996, 1998, 1999, 2001, 2002b, 2002c; 吉村、長谷川 1995, 1996; 早稲田大学エジプト学研究所編 2001, 2006, 2007; Yoshimura and Takamiya 1994, 2000; Yoshimura et al. 1997; Yoshimura and Saito 2003）。
5) 丘陵頂部の新王国時代のトゥーム・チャペルとその関連施設についての概要は、以下を参照（吉村他 2009, 2010; Kawai and Yoshimura 2009, 2010; Yoshimura and Kawai 2011; Kawai 2011, 2012）。